

令和 5 年度 第 1 回昭島市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

1 概要

○日 時：令和 5 年 7 月 24 日(水) 18:00～19:35

○場 所：昭島市役所 3 階庁議室

○出席者：

◇委 員：宮脇健太郎委員、荒井康裕委員、雨宮勝委員、荒畑恵子委員、金子恵美子委員、清水吉仁委員、高橋靖和委員、長谷川京子委員、畠山雄平委員、古屋智人委員、万代春佳委員、葉袋徳行委員、村山智徳委員、森本弘子委員、山下雪絵委員
※欠席委員 なし

◇事務局：池谷環境部長、近藤清掃センター長、栗田清掃施設担当課長、川鍋ごみ対策課長、大久保地域防災担当課長、浅利清掃センター業務係長、長谷川清掃センター業務係主任

2 委嘱状交付

机上にて委嘱状が交付された。

3 市長挨拶

白井市長より挨拶があった。

4 自己紹介

事務局及び委員の自己紹介を行った。

5 正副会長の選出

事務局からの腹案により、会長に宮脇委員、副会長に荒井委員が選出された。

6 諮問

白井市長より、宮脇会長に「昭島市災害廃棄物処理計画」の策定について諮問された。

7 議題

- (1) 災害廃棄物処理計画策定について（資料 1）
- (2) 昭島市災害廃棄物処理計画構成案について（資料 2）
- (3) その他

8 資料

- ・ 第一回昭島市廃棄物減量等推進審議会の日程
- ・ 資料 1 災害廃棄物処理計画策定について
- ・ 資料 2 昭島市災害廃棄物処理計画（構成案）
- ・ 資料 3 審議会の令和 5 年度の予定について

9 議事内容

議題1 災害廃棄物処理計画策定について

事務局より、資料1に基づいて災害廃棄物処理計画策定の説明を行った。

- ・東日本大震災の際、廃棄物の一次仮置場と二次仮置場はそれぞれどのくらいの期間にわたって運用されていたのか。また、臭気の問題などが発生したのかについて教えていただきたい。(高橋委員)
- ・一次仮置場では約2年、二次仮置場では約3年程度となっている。震災から1年後の石巻では、住宅地から比較的近い場所で臭気を感じるがあった。(会長)
- ・平成28年の岩泉町の台風災害について、町内各地で土砂災害や浸水被害が発生し、様々な種類の災害廃棄物が発生したところである。仮置場については、道路が各地で分断されていたため、地域で仮々置場を設置していただき、行政として仮置場を16か所設置し、それらを選別しながら二次仮置場へ移動して選別を行った。最終的には約9万トンの廃棄物が発生し、危険があるものについては急いで処理を行い、あとはコストを抑えるために約3年かけて処理を行った。臭いについては、夏場ということもあって浸水した畳が腐敗して悪臭がする場所もあった。また、二次仮置場は周りに民家がない場所であったため、苦情等はなかった。(委員)

議題2 昭島市災害廃棄物処理計画構成案について

事務局より、資料2に基づいて昭島市災害廃棄物処理計画構成案について説明を行った。

- ・昭島市で発生した災害廃棄物は、全て市内で処理を行った後に出されるのか。(委員)
- ・市内で発生した廃棄物は、まず仮置場に運搬し、そこで選別作業を行う。市内の焼却施設が利用できない場合は、市外の事業者による焼却及びリサイクルを行う流れとなっている。(事務局)
- ・前回の台風の際、焼却場において水がどの程度まで達したか、そして焼却施設が水害に遭った場合にはどのような対応が取られるのか、他市との連携等は考えているのか教えていただきたい。(委員)
- ・多摩川が越水したということはなかったが、清掃センターは窪地になっているため、玄関先まで水がきた。その後、防止板と防水シートによる対策を行っており、水の侵入は防げるものと考えている。万が一施設が水没して使用できなくなった場合に備えて、都外の事業者との間で運搬・処理に係る協定の準備を進めているところである。(事務局)
- ・収集運搬のルートについては示されているが、一次仮置場の場所については確定しているのか。事前に仮置場の場所の予定を示してもらえると、市民も協力し易くなり安心するのではないか。(委員)
- ・現時点では明確に決まっていない状況である。(事務局)
- ・仮置場の場所が明記されていない計画が多い。色々事情があると思われるが、是非積極的に明記していただければと思う。(会長)
- ・ごみの出し方について、水害と地震とで分けて作ってもらったほうが市民に伝わり易いかと思われる。(委員)
- ・東京都でも処理計画の改定を進めており、水害対策に関する内容も記載されている。それらを参照するのがよいと思われる。東京都の計画の中で一次仮置場の前に地域で一定程度集積する場

所として集積所を設置するという考え方も出てきているので取り入れていただければと思う。(会長)

・水害の片付けをするには大量の水が必要になるため、水道分野との連携も必要になってくると思われる。計画の本質とは異なるが、余裕があれば関連部署との接点についても視野を持っていただくのが良いかと思われる。(副会長)

・現在、地域防災計画の修正を図っており、そちらに盛り込んでいきたいと考えている。また、去年東京都で立川断層帯地震の被害想定が見直されており、災害廃棄物の想定量が前回よりも多少減って最大 56 万トンとなっている。(事務局)

・下水処理施設は水害のリスクはないのか。もし、機能しなくなった場合、廃棄物の増加が懸念される。(委員)

・昭島より西側地域の下水を処理するために東京都が終末処分場を設置している。多摩川の水害等に耐えられる設備になっているものと思われるが、詳細については後日確認する。(事務局)

・し尿の推計や仮設トイレに関連する話になるが、昭島市における水洗トイレと汲み取りトイレの比率は具体的にどのようなになっているか。(副会長)

・ほぼ 100%に近い割合で水洗化が達成されている。ごく一部地域で汲み取りが残っており、それらは希釈処理をしたうえで下水処理場に流している。(事務局)

・災害時においては、平常時の繋がりが大事だと思われる。昭島市はほとんどが水洗ということで、今後具体的な計画ができたときに、誰がどこを汲み取るかといったところが大事になってくるかと思われる。(副会長)

・岩泉町では町の中心部において下水化率が 80%ほどになっているが、端々については汲み取り浄化槽が多い。水害の際は便槽や浄化槽に土砂が流入するという状況が発生した。そこで、どれくらいの土砂が流入しているか調べるところから始まり、業者の選定、土砂の吸い取りと住民への説明等、結構な手順があり想定外の部分も考えていく必要があると思われる。(委員)

・昭島にも少ないとはいえ汲み取りがあり、また下水道の管路関係に土砂が入ったということもあるため、防災計画の方と連携をとって計画を立てていただくのが良いかと思われる。(宮協会長)

・岩泉町での災害経験から、職員や市民の皆様が事前に効果的に行動できるようにするためには、計画だけでなくマニュアル化も重要だと感じた。仮置場やルートを設置等、計画とは別にマニュアルのような形で作るということも書いておくのが良いと思われる。(委員)

・資料をお読みいただき、ご質問等ございましたら、どうぞ遠慮なく昭島市にお問合せいただきたい。また、余力があれば東京都のホームページに最新の計画案が載っているのを見ていただければ参考になるかと思われる。(会長)

議題 3 その他

事務局より、資料 3 に基づいて審議会の令和 5 年度の予定について説明を行った。